

行田市長 工藤 正司 様

報 告 書

～「忍・行田公民館」について～

平成26年8月4日
行田市施設検討委員会

平成26年8月4日

行田市長 工藤 正司 様

行田市施設検討委員会
委員長 大須賀 伊司郎

「忍・行田公民館」について（報告）

当委員会は、検討依頼のありました「忍・行田公民館」に係る意見について、下記のとおり報告いたします。

記

【意見】

「忍・行田公民館」は、隣地にある旧図書館跡地を活用し建て替えることが適当である。

【理由】

- ・ 「忍・行田公民館」は、昭和46年の開館以来40年以上が経過し、地域公民館の中では最も古い施設である。また、唯一の3階建構造の公民館であり、先に実施した耐震診断では、耐震の基準値を大幅に下回る結果となっている。
- ・ このため、現在の施設は、老朽化した設備やバリアフリーの面において構造的な課題があるとともに、耐震改修工事を実施した場合には、新たに設置される鉄骨ブレースにより部屋の一部が分断され、利便性が著しく低下することが懸念される。
- ・ さらに、今後における費用対効果や当該地域における避難所機能としての継続性、現在の施設利用者の負担等を含めて総合的に考慮した場合、隣地にある旧図書館跡地を活用し建て替えることが適当である。

【留意事項】

「忍・行田公民館」を建て替える際には、地域公民館利用者全体の約6分の1が当公民館を利用している状況を踏まえた上で、施設の適正規模と機能性を確保されたい。

また、外観については、水城公園の景観に配慮するとともに、屋根は老朽化に伴う漏水を防止するため、陸屋根ではなく切妻屋根など勾配屋根とすることを検討されたい。

なお、玄関ホールに使用されている赤レンガの構造物については、現公民館の面影を受け継ぐ象徴として、新公民館においても再利用することを検討されたい。